

第2章 専攻科修了生の現状

2.1 はじめに

徳山工業高等専門学校専攻科は、平成9年3月から平成14年3月までの6年間に、111名の修了生を送り出してきた。111名の修了生の内、平成14年10月に実施したアンケートに対する回答者は、57名（回答率51%）であった。アンケート回答者の性別、年齢、修了年、専攻は、図2.1-1～4に示すとおりである。

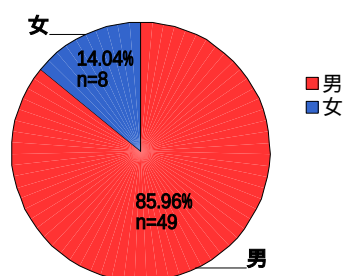


図2.1-1 性別

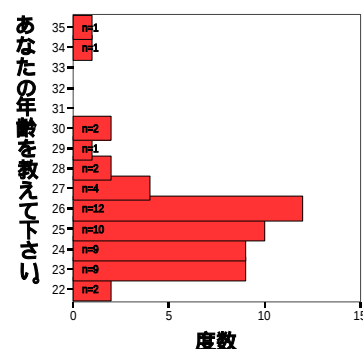


図2.1-2 性別

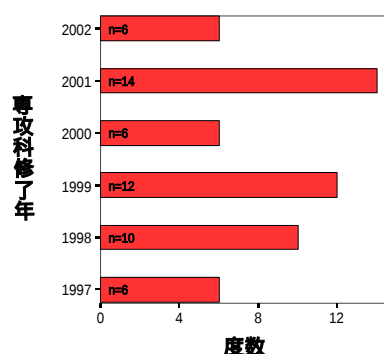


図2.1-3 修了年

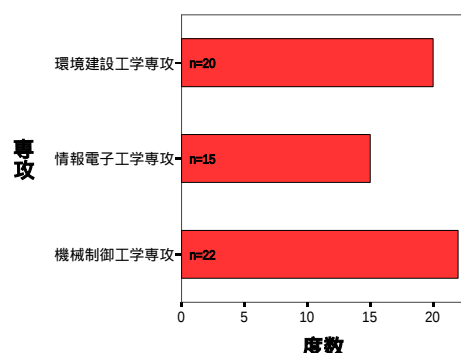


図2.1-4 専攻

現在の身分は、職業人が41名（71%）、大学院生が10名（17.5%）、その他が6名（10.5%）である。どの専攻も職業人が最多数を占めており、特に情報電子工学科では、その他の1名を除く14名が就職しており、高い就職率がうかがえる。一方、環境建設工学専攻ではその他が25%、機械制御工学科では大学院進学者が前期・後期課程合計で37%という高い進学率を示しているのが特徴である。最終学歴では、高専専攻科が41名、大学院前期が13名、大学院後期が1名。取得学位は、修士が14名、学士が42名、準学士が1名となっている。

専攻科修了生の現状については、専攻科修了生アンケートの「2.現在の状況に関する項目」で質問している。以下では、アンケート結果を7項目に分類し【(1)就職先企業について、(2)役職、待遇について、(3)仕事のやりがい、自己評価について、(4)転職について、(5)英語について、(6)進路について、(7)複合教育について】、それぞれの内容について紹介する。なお、専攻科修了生アンケートは【専攻科1-1】のように表し、1-1は質問番号を示している。

2.2 専攻科修了生の現状

(1) 就職先企業について

就職先企業については、【専攻科2-1】「就職先企業の業種について別紙（業種分類）よりお選び下さい」、【専攻科2-2】「就職先企業の資本金はいくらですか」、【専攻科2-3】「就職先での職種は何ですか」の3項目について回答を得ている。

業種については、複合学科という本校専攻科の特色にふさわしく、さまざまな業種に就職している状況がよく分かる。ただ、環境建設工学専攻については、「建設業」（12名中8名）に就職している割合が高くなっている。資本金では、100億以上の企業に就職している割合が大きいのが、情報電子工学専攻（13名中7名）と環境建設工学専攻（10名中4名）である一方、さまざまな規模の企業に就職しているのが機械制御工学専攻の特徴となっている。専攻別に職種を見てみると、機械制御工学専攻では、「設計」（6名）、「研究・開発」（4名）など、開発的な職種に就いているものが85%。情報電子工学専攻では、「システム・エンジニア」（4名）、「設計」（3名）、「プログラマ」（3名）など、86%が開発的な職種に就いている。環境建設工学専攻では、「施工管理」（7名）、「設計」（3名）となっており、開発的な職種に就いているのが31%、技術管理的な職種に就いているのが54%となっている。修了生全体では、開発的な職種に就いているのが67%となっており、修了生の過半数が「開発型技術者」として活躍できる職場に就職している様子が窺える（図2.2-1参照）。

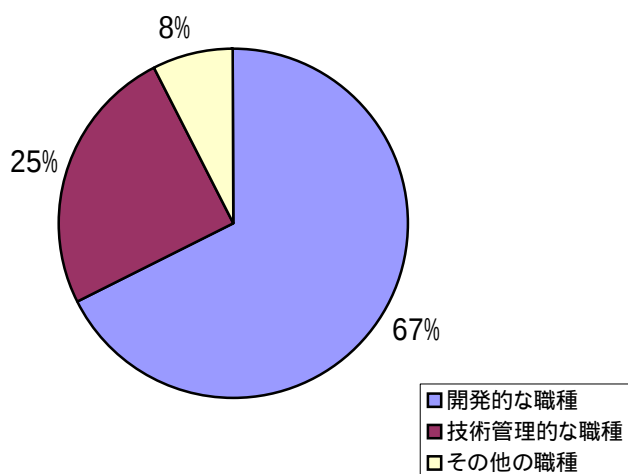


図2.2-1 職種（全専攻）

開発的な職種：研究・開発，設計，システム・エンジニア，プログラマ

技術管理的な職種：生産管理，品質管理，サービス・エンジニア，施工管理

その他の職種：営業・セールス，調査・企画，教職，その他

(2) 役職，待遇について

役職，待遇に関する設問項目は、【専攻科2-4】「現在の役職は何ですか」、【専攻科2-11】「職場で学歴に相応した待遇を受けていると思いますか」の2項目である。

役職については、最初の専攻科修了生を送り出してから、まだ6年間経っていない現状では、特に特色は見受けられない。どの専攻も、役職なしがほとんどである。待遇については、「満足」、「まあ満足」と答えたものが、機械制御工学専攻では86%、情報電子工学専攻では71%、環

境建設工学専攻では 62% となっており，相対的にみると環境建設工学専攻の満足度が低くなっている（図 2. 2 - 2 参照）。回答者のコメントによると，「給料が少し安い等」，「院卒と能力的に同じなのに待遇が良くない」となっている。

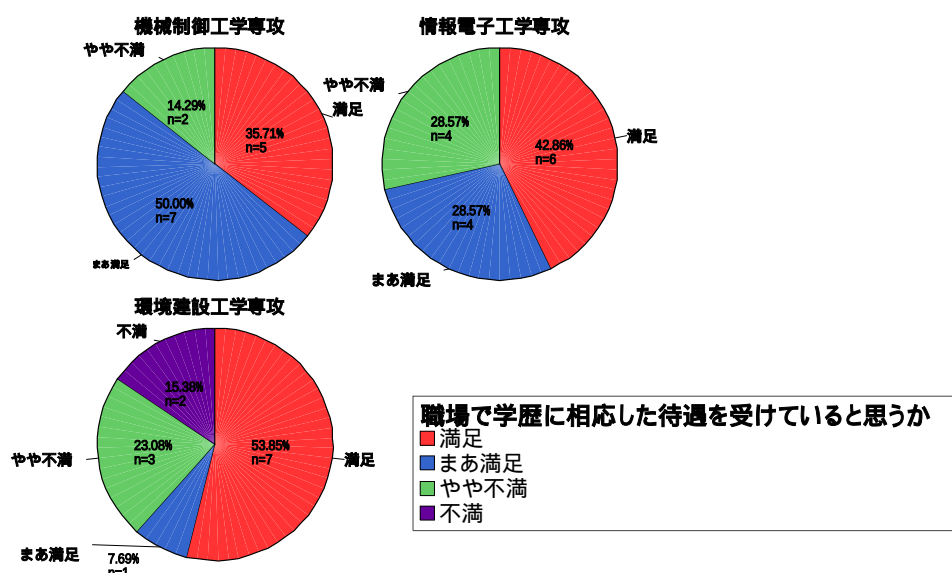


図 2. 2 - 2 待遇

（３）仕事のやりがい，自己評価について

この節で該当するアンケート項目は【専攻科 2 - 5】「今の仕事にやりがいを感じていますか」，【専攻科 2 - 6】「仕事にやりがいを感じないと答えられた方は，何に問題がありますか（複数回答可）」，【専攻科 2 - 7】「あなたが会社でよい評価を受けている（重宝される）点を次の中から選んで下さい（複数回答可）」，【専攻科 2 - 8】「職場で自分の能力を発揮できていると思いますか」，【専攻科 2 - 9】「開発的な仕事をした経験がありますか」，【専攻科 2 - 10】「会社の中で情報技術に関する能力の優位さを感じますか」，【専攻科 2 - 19 - 1】「会社で高専卒業生が同年齢の大学卒業生に比較して優れていると評価されていると感じる点を以下から選んで下さい（複数回答可）」，【専攻科 2 - 19 - 2】「会社で専攻科卒業生が同年齢の大学卒業生に比較して優れていると評価されていると感じる点を以下から選んで下さい（複数回答可）」の 8 項目である。

やりがいを「とても感じる」，「わりと感じる」と答えたものは，機械制御工学専攻では 100% に達している。情報電子工学専攻は 86%，環境建設工学専攻は 77% がやりがいを感じている。やりがいを「あまり感じない」と答えたのは情報電子工学専攻の 2 名，環境建設工学専攻の 3 名はやりがいを「まったく感じない」と回答している（図 2. 2 - 3 参照）。仕事にやりがいを感じない理由は（複数回答），「職種の不一致」（3 件），「業種の不一致」（2 件），「就業地域に問題」（1 件），「待遇の問題」（1 件）となっている。会社で評価を受けている点を自己評価した結果は，「誠実さ」（14 件），「専門知識」（13 件），「協調性」（13 件），「パソコン他情報技術に関する能力」（12 件）となっている。「誠実さ」や「協調性」の件数が多いのは，技術者としての倫理が会社で高く評価されているという自信のあらわれともいえよう。職場で自分の能力を発揮できているかどうかについては，機械制御工学専攻と情報電子工学専攻では，「とても発揮している」と「わりと発揮している」が 86% と高い割合を占めているが，環境建設工学専攻では 62% となっている。設問

【専攻科 2 - 5】の「やりがい」との関連性が推測される。開発的な仕事をした経験については、機械制御工学専攻では、「直接携わった」り、「間接的に携わった」と答えたものが 64%，情報電子工学専攻では、「直接携わった」と答えたものが 77%となっているのに対し、環境建設工学専攻では、「間接的に携わった」と答えたものが 17%となっている（図 2 . 2 - 4 参照）。これについては、【専攻科 2 - 3】「職種」との関連性を指摘しておく。情報技術に関する能力の優位さについては、機械制御工学専攻で「とても感じる」、「わりと感じる」と答えたものが 64%。同じく、情報電子工学専攻は 71%。環境建設工学専攻は 36%という結果である。【専攻科 2 - 7】で「パソコン他情報技術に関する能力」が上位に来ていることを考えると、環境建設工学専攻の回答は意外な結果である。大学卒業生との比較については、【専攻科 2 - 7】とほとんど同じ傾向が見られる。高専・専攻科を問わず、大学卒業生と比較して優れていると評価されているのは「専門知識」、「誠実さ」、「パソコン他情報技術に関する能力」の 3 点である。

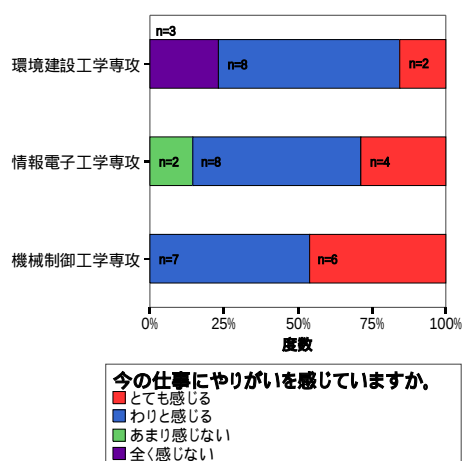


図 2 . 2 - 3 やりがい

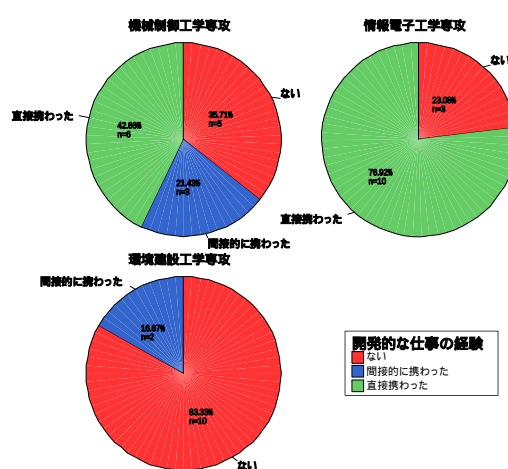


図 2 . 2 - 4 開発的な仕事

(4) 転職について,

転職に関する設問は、【専攻科 2 - 1 7】「転職に関する質問です。該当する項目をお選び下さい」、【専攻科 2 - 1 8】「転職の経験のある方にお尋ねします。転職の主な理由は何ですか（複数回答可）」の 2 項目である。

すでに 5 名が転職を経験し、これまで転職について考えたことがあるものが過半数を超えている。環境建設工学専攻で転職について「よく思うことがある」、「現在も思っている」と考えているものが相対的に多いのは、【専攻科 2 - 5】「やりがい」や【専攻科 2 - 1 1】「待遇」との関連を想起させる。転職理由で一番多いのは「待遇の問題」(5 件)であり、「職種の不一致」(2 件), 「業種の不一致」(1 件), 「その他」(1 件)と続いている。

(5) 英語について,

英語に関する設問は、【専攻科 2 - 1 5】「仕事で海外に行ったことがありますか」、【専攻科 2 - 1 6】「職場で英語が必要なことがありますか」、【専攻科 2 - 2 5】「自分の英語力に自信がありますか」の 3 項目である。

仕事で海外に行ったことが「ある」と回答したものは、機械制御工学専攻の 1 名だけである。職場における英語の必要性については、「よくある」、「たまにある」と答えたものが、情報電子工

学専攻で 92%，機械電気工学専攻で 77%と高い一方で，環境建設工学専攻では 16%に留まっている。職種の違いであろうか。英語力については，専攻科修了生の中で「自信がある」と答えたものは 1 人もいない。情報電子工学専攻に至っては，「少し自信がある」と回答したものすらいない（図 2.2-5 参照）。

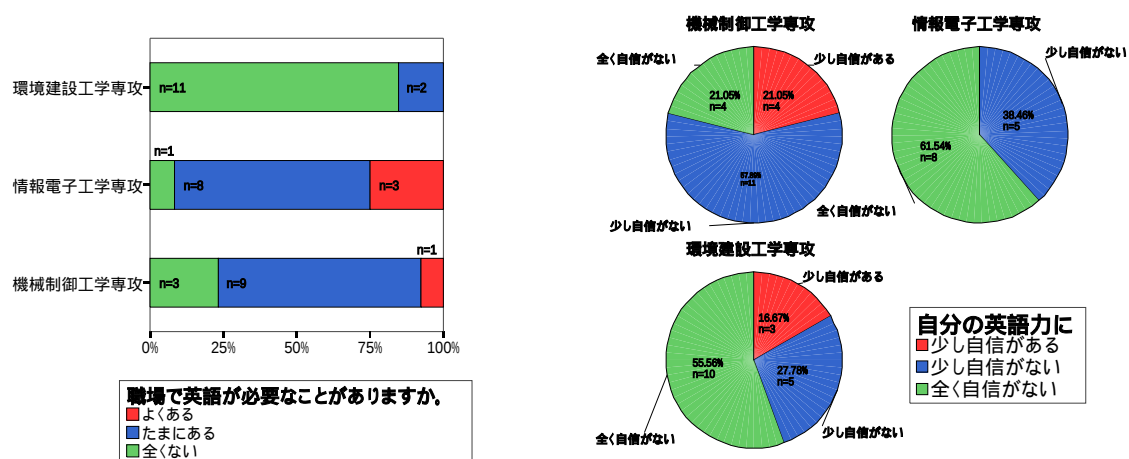


図 2.2-5 英語

(6) 進路について

該当するアンケート項目は，【専攻科 2-14】「専攻科から就職という進路についてどのように思っていますか」，【専攻科 2-20】「専攻科から大学院へ進学することは，本科卒業後，大学 3 年に編入して大学院へ進学するより有利だったと思いませんか」，【専攻科 2-21】「大学院において専攻科卒であることがプラスになりましたか」，【専攻科 2-22】「大学院進学という進路についてどのように思っていますか」，【専攻科 2-23】「これまでの自分の進路についてどのように思っていますか」，【専攻科 2-24】「今の生活に満足していますか」の 6 項目である。

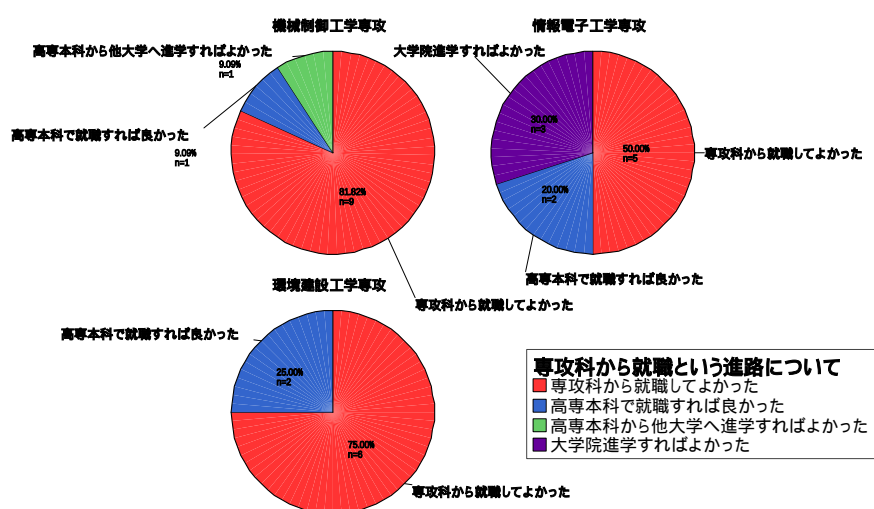


図 2.2-6 進路

まず、就職については、機械制御工学専攻の 82%、環境建設工学専攻の 75%が、「専攻科から就職してよかった」と答えている。一方、情報電子工学専攻では、「専攻科から就職してよかった」と答えているのは 50%に留まっており、他の 50%は「大学院進学すればよかった」(3 名)、「高専本科で就職すればよかった」(2 名)と回答している(図 2.2-6 参照)。大学院進学については、専攻科からの進学について、有利だったと答えているものが 72 パーセント、また、78%が進学時だけでなく、進学後も専攻科卒であることがプラスになったと答えている。その理由として、「研究歴の長さ」(3 件)、「プレゼン能力」(3 件)、「専門知識」(2 件)が挙げられている。「大学院に進学してよかった」と答えているものが 89%となっており、大学院進学については総じて満足度が高くなっている。これまでの自分の進路については、各専攻とも「高専を選んでよかった」が高い割合を占めている。特に情報電子工学専攻では、13 名全員が「高専を選んでよかった」としており、修了生の高い満足度が窺える。今の生活に対する満足度についてだが、「満足」、「まあ満足」と回答したものが全ての専攻で 7 割を超えており、おおむね今の生活に満足しているようだ。ただ、他の専攻と比較して、【専攻科 2 - 5】仕事にやりがいを感じていなかったり、【専攻科 2 - 11】待遇に満足していないと回答した割合が高い環境建設工学専攻については、不満の割合が若干高くなっている。

(7) 複合教育について

複合教育に関する質問は、【専攻科 2 - 12】「本校は複合学科(機械・電気、情報・電子、土木・建築)すなわち、2 分野にまたがる複合教育をしています。このことが、企業に就職する際に有益でしたか」、【専攻科 2 - 13】「複合教育を受けたことが、就職して役に立ちましたか。(企業から重宝がられていますか。)」の 2 項目である。

複合教育が就職時に有益だったかという設問については、機械制御工学専攻と環境建設工学専攻が同じ傾向を示しているのに対し、情報電子工学専攻だけは他専攻とは異なる傾向を示している。つまり、機械制御工学専攻と環境建設工学専攻では、「どちらでもない」と答えたものが多数を占めているのに対し、情報電子工学専攻では、「有益だった」、「いくらかは有益だった」と答えたものが 71%を占め、複合教育が積極的に評価されている。他専攻でも否定的に考えている回答者は少なく、本校の複合教育はおおむね評価されていると見てよいだろう。就職後に複合教育が「役に立った」、「いくらか役に立った」と肯定的に回答した者は、前の設問よりも増えており、複合教育が就職時よりも就職後に役立っていることが判明する。特に、大学院前期課程進学者が、

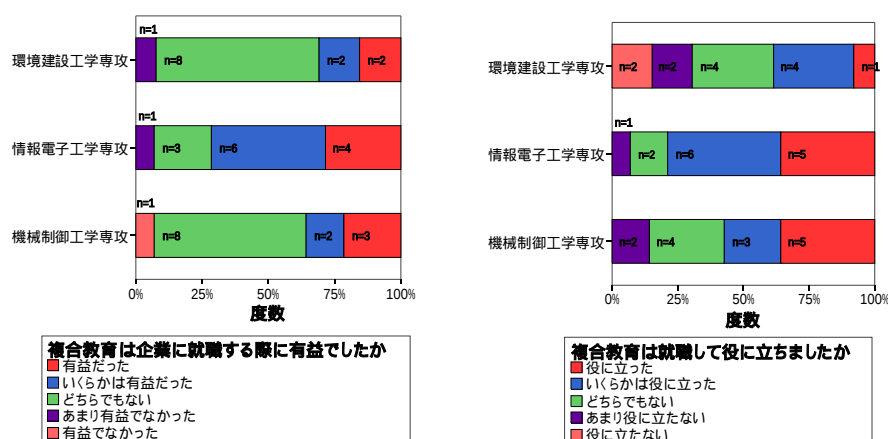


図 2.2-7 複合教育と就職

就職時に「どちらでもない」と答えた者が6名、「有益だった」と答えたものが2名であったのに対し、就職後になると「役に立った」、「いくらかは役に立った」と答えたものが5名、「どちらでもない」と答えたものが1名となっている。このことは、大学院進学者であっても、本校の複合教育が就職後に役立っていることを裏付けている（図2.2-7参照）。

2.3 本章のまとめ

以上、専攻科修了生のアンケート結果を紹介してきた。専攻科修了生の就職先については、環境建設工学科において建設業が占める割合が大きい以外、大きな特徴は見られない。職種については、機械制御工学専攻の85%、情報電子工学専攻の86%が開発的な職種に就いており、また、機会制御工学専攻の64%、情報電子工学専攻の77%が開発的な仕事をした経験があると答えている。機械制御工学専攻と情報電子工学専攻では、本校の教育目標である「開発型技術者を目指す人材の育成」がある程度実現されているといえるだろう。ただし、環境建設工学専攻では、開発的な職種に就いているのが31%、開発的な仕事をした経験があるものが17%となっており、今後「開発型技術者を目指す人材の育成」をどう進めていくかが課題であろう。

修了生の能力評価という面では、「誠実さ」、「専門知識」、「パソコン他情報技術に関する能力」が上位を占めている。ただし、情報技術については、職場で能力の優位さを強く感じるほどではないようだ。満足度については、職場での待遇や仕事のやりがい、能力の発揮など、いずれも肯定的な評価が高く、今の生活についても満足しているものが多い。ただ、専攻科から就職という進路については、情報電子工学専攻の半数が満足していないという結果が出ている。

最後に、本校の特徴である複合教育については、情報電子工学専攻で特に高く評価されているという点、就職時よりも就職後に評価されている点を指摘しておきたい。

（担当：柏倉）

